



新年のご挨拶

(福)光友会 理事長 五十嵐 紀子

皆様 明けましておめでとうございます。

辰年の年明けにあたり心から清々しい気分で、新年を迎えられた皆様と共に元気に新年を迎えました。

昨年迄の数年はコロナに見舞われておりましたが、昨年から人々の顔からマスクもとれ、表情も豊かになってきました。毎日通勤途上で見る富士山も一段と輝いて見えるようになりました。

辰年といえば、十二支の中で最強の干支、“成功に向かって登る龍の如し”とも言われているようで、当法人も是非あやかりたいと思います。

当法人では、ワイン造り、稲作、野菜づくりにも精を出し、農を担う利用者さんも皆元気に頑張っています。

又、発達障害の方々のための通所施設リエールもすぐに定員一杯となり、それらの方々への医療も専門的見地が必要となり、今診療所の設置に向けて準備を進めております。



時代の変化と共に事業所の在り方も変化を遂げなければなりません。役・職員一丸となって頑張ってお参りますので、利用者の皆さんをはじめとして関係者の皆様の御協力と御指導、ご鞭撻を何卒よろしくお願い申し上げます。



いぶきだより Vol.72 目次

1 ページ 新春のご挨拶 2 ページ 全体遠足 3 ページ いぶきまつり

4 ページ 出前講座のご案内 職員の入退職 職員のひとりごと 別紙 いぶき後援会

遠足に行ってきました



2023年11月2日（木）日中活動で、横浜八景島シーパラダイスに遠足に行ってきました。新型コロナウイルスの影響によりイベントがなくなり約4年ぶりとなる外出です。

当日は、晴天に恵まれ、水族館でのイルカのショーを楽しんだり、敷地内を散歩したり、フードコートでアイスを食べたり、皆さんそれぞれの楽しみ方で久しぶりの外出を楽しまれていました。忘れかけていた外出（遠足）の素晴らしさを実感していただいた一日になったことと思います。

最後にグループ全体での写真を撮り、良い思い出になりました。



いぶきまつり 2023

2023年10月14日（土）晴天の中“いぶきまつり2023”を4年ぶりに開催しました。『すぎたから♡つな^よ5』と題して、磯子スポーツセンター、新杉田公園、南部地域療育センター、新杉田地域ケアプラザの5施設の同日開催です。

当日の来場者数は、5施設合わせて約1,630名、いぶきまつりへは約450名と大盛況でした。吹奏楽団“プラス・カスミッシモ”による演奏で開会式が始まりました。磯子区長のお話、施設長の開会宣言のあと、いぶきの駐車場では、地域や施設による模擬店が開店し行列ができるほどの大賑わいでした。



2階ステージでは、“プラス・カスミッシモ”の演奏を皮切りに、大迫力の“久良岐太鼓”、参加者と一緒に楽しむ“イソット”を皆さんに楽しんでいただきました。また、例年のおまつりでは、2階食堂にて大抽選会を開催していましたが、室内の密集を避けるため当選番号を玄関前に貼りだしました。ご来場の皆さんが合格発表さながらに番号を見つけると飛び上がって喜び、賞品を受け取る姿が見られました。

2階



1階



久しぶりの『いぶきまつり』、地域の方々に支えられて、たくさんの方々と楽しい時間を共有することができました。来年のいぶきまつりもお楽しみに！ご協力ありがとうございました。

磯子区基幹相談支援センター

～一緒にお話しませんか 最終回～



区連携事業・将来を考える講座を開催しました

11月1日、磯子区役所会議室で〈障がいのあるご本人とご家族のための将来を考える講座〉を開催しました。

3名のご家族に登壇していただき、我が子がグループホームへ入居するまでのお話や成年後見制度を利用することになったきっかけなど、経験談や心配事をお話いただき、会場にいらしたみなさんからの質問にもお答えいただきました。講座の後半では、後見的支援室コネクト・ハートと自立生活アシスタントの事業紹介を行いました。

会場にいらした多くの方がアンケートをご記入くださり、「ご家族でないと語れない内容がとても心にしみた」「親は手放したくないけれど、覚悟を決めて親が動けるうちにやる必要を学んだ」「職員を信じ、本人を信じるという言葉が印象に残った」等、お話を聞いたことに感謝の言葉が多く寄せられ、将来の生活を考えるきっかけになったと感じています。登壇者の皆様、本当にありがとうございました。



磯子区基幹相談支援センターでは、出前講座、勉強会などを行っています。お気軽にお問い合わせください。一緒にお話をしましょう。



≪磯子区基幹相談支援センター ☎ 045-778-6635≫



職員の入退職

入職	9月 1日付	(いぶぎ) 柳瀬 ^{やなせ} 眞澄 ^{ますみ}
	11月 1日付	(いぶぎの家) 松浦 ^{まつら} りえ
退職	9月30日付	上野 千春
	12月31日付	廣瀬 亜美 (いぶぎ)

職員のひとりごと



奄美大島は私の第二の故郷です。きっかけは仙台市で学生一人暮らしの時に始めたスキューバダイビング。卒業後、入社初年で不本意にも大阪配属となり、ダイビングショップで出会った人が島人(しまんちゅ)でした。「奄美って沖縄?」と訊く私を彼女は残念に思ったことでしょう。

さて、「よーりよーり」という島口(しまぐち)は、「ゆっくりゆっくり」の意味で、奄美らしい好きな方言です。是非遊びに来てください。いも〜れ奄美へ



磯子区基幹相談支援センター 金子 正治